

## (5) 画僧「雪村」(戦国時代)

せつそんしゅうけい

雪村周継は、会津や三春などで活やくした画僧として知られています。

雪舟とならぶほどの画家ですが、雪村の生がいについて記したものがないので、くわしいことはわかりません。

雪村が、三春のはずれに住んだのは、およそ、70さいごろからで、それから10数年の間ここで絵をかき続けました。

雪村は、ここでなくなったとされています。

雪村が住んでいたところは、江戸時代になってから(1658年)、高乾院こうけんいんの一元いちげんというお坊さんによって「桜梅山雪村庵」と名づけられました。この場所では毎年春に「雪村祭」が行われています。

雪村は、風景や動物、虫や野菜など、日常生活を題材にした作品をかきました。

「風濤図」ふうとうずや「呂洞賓図」ろどうひんずは、雪村の代表作として、国の重要文化財になっています。

雪村は、雪村庵に住んでからも多くのすぐれた絵をかきましたが、三春にはあまり残されていません。

三春町歴史民俗資料館には、「奔馬図」ほんば「雪村自画像」(複製)があります。



雪村庵